

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
衣生活とSDGs	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	1	2	衣服は人体を覆うものであり、心と身体を包む最も身近な人工の環境である。持続可能な衣生活に必要とする衣料素材や表示情報、製造と流通、衣服の管理と環境との関わりについて理解する。さらに、衣服の持つ多面的な機能や役割、衣服の起源や変遷、グローバル化を背景とする技術革新、日本の文化的な背景を学び、SDGsの視点からこれからの衣生活のありかたを考察する。	・衣服の素材や製造、管理と環境との関わり、技術革新に関する基礎的な知識を理解し、総合的に説明できる。（知識・技能） ・衣服の社会的な役割について理解を深め、TPOやライフステージに応じた衣服を適切に選び、衣服の計画的な購入や廃棄方法を示すことからSDGsの視点から持続可能な衣生活を提案できる。（課題発見・解決力） ・衣生活の変化に関心を持ち、これからの衣生活のありかたをSDGsの目標やターゲットを踏まえて具体的に示すことができる。（探究・継続力）	・衣服の素材や製造、管理と環境との関わり、技術革新に関する最低限の知識を理解し、必要に応じて説明できる。（知識・技能） ・衣服の社会的な役割を理解して、TPOやライフステージに応じた衣服を適切に選ぶことから、持続可能な衣生活を提案できる。（課題発見・解決力） ・衣生活の変化に関心を持ち、これからの衣生活のありかたを継続して示すことができる。（探究・継続力）
食生活とSDGs	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	1	2	人間の体は、口に入れた食べ物からできている。すなわち食事は人体を作り育むものである。持続可能な食生活に必要とする食物・その素材や加工時の表示情報、製造と流通、食の管理と環境との関わりについて理解する。さらに、食事の持つ多面的な機能や役割、食文化の起源や変遷、グローバル化を背景とする技術革新、日本独自の食の背景を学び、SDGsの視点からこれからの食生活のありかたを考察する。	・過去から現在に至る食生活の変化を理解し、現状を分析して課題を見出し、未来に向けてその解決をはかりながら自己の食生活に活用していくことができる。（知識・技能） ・ライフステージの特性を知り、ステージに合った食生活を適切に計画できる。（課題発見・解決力） ・個人の食生活がSDGsを事例として地球レベルの社会・環境問題に繋がっていることを理解し説明できる。（探究・継続力）	・過去から現在に至る食生活の変化を理解し、現状を分析して課題を見出し、未来に向けてその解決をはかりながら自己の食生活に活用していくための基礎的事項を活用できる。（知識・技能） ・ライフステージの特性を知り、ステージに合った食生活を計画できる。（課題発見・解決力） ・個人の食生活が地球レベルの社会・環境問題に繋がっていることの基礎的事項を理解し説明できる。（探究・継続力）
住生活とSDGs	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	1	2	住まいは住生活の容れものであり、住生活に必要な空間が住まいに備わっていなければならない。住まいが歩んで来たプロセスとその背景にある文化と人の暮らしを見つめ直し、現代における住まいの役割を理解する。さらに、持続可能な社会を実現するための住まい・住空間のあるべき姿を考察する。	・身近にある住まいについて、住宅建築と住生活に関する知識を理解し、具体的に説明できるようになる。（知識・技能） ・今後の自分と住まいとのつきあいをより良いものにしていくために必要な実践的な洞察力、判断力を身につけ、具体的な提案として説明することができる。（課題発見・解決力） ・住生活の変化に関心を持ち、持続可能な社会を実現するための具体的な住生活のあり方を示すことができる。（探究・継続力）	・身近にある住まいについて、住居と住生活に関する最低限の知識を理解し、基本的なことについては説明できるようになる。（知識・技能） ・今後の自分と住まいとのつきあいをより良いものにしていくために必要な最低限の洞察力、判断力を身につけ、基本的なことについて説明することができる。（課題発見・解決力） ・住生活の変化に関心を持ち、持続可能な社会を実現するための基本的な住生活のあり方を示すことができる。（探究・継続力）
PC活用演習	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	1	1	専門教育科目における課題解決に活用できる情報処理能力を養うために、情報処理の基礎的な操作や知識に加えて、より高度なデータ管理、分析、文書作成、プレゼンテーションの知識を学び、理解する。さらに、目的に応じて必要とするソフトウェアWord, Excel, PowerPoint, Acrobat等を選択し、相互の連携機能駆使して幅広く、継続的に活用できるスキルを身につける。	・Word, Excel, PowerPoint, Acrobat等ソフトウェアの高度な機能や使用方法、連携方法を理解し、実践的に活用できる。（知識・技能） ・Word, Excel, PowerPoint, Acrobat等のソフトウェアの機能の中から適切な機能を選択し、専門教育科目の課題解決に活用できる。（課題発見・解決力） ・PCで作成したデータの保存および管理方法について理解を深め、適切なデータ管理や情報のアップデートを行ない、継続的に活用できる。（探究・継続力）	・Word, Excel, PowerPoint, Acrobat等ソフトウェアの高度な機能や使用方法を理解し、実践的に活用できる。（知識・技能） ・Word, Excel, PowerPoint, Acrobat等のソフトウェアの機能を使って、専門教育科目の課題解決に活用できる。（課題発見・解決力） ・PCで作成したデータの保存および管理方法について理解し、データ管理を行ない、継続的に活用できる。（探究・継続力）
CG基礎演習	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	1	1	デジタルデザインの入門として、Illustrator、Photoshopの基本的な操作方法を学ぶ。それぞれのソフトウェアが持つ多彩な機能について理解し、練習課題を通して専門教育科目における課題解決に活用できる操作スキルを習得する。また、ソフトウェアの基本操作を学びながら、デジタルデザイン制作の用途の違い（印刷物またはWEB）、設定方法、画像フォーマットの種類等、デジタルデザインに必要な知識を身につけて継続的に活用する。	・IllustratorとPhotoshopを連携して使用し、実社会における諸課題の解決に活用できる。（課題発見・解決力） ・Adobe Illustratorの用途・機能を知り、基礎的な図形作成、変形、合成、レイヤー操作、その他の機能が操作できる。また、Adobe Photoshopの用途・機能を知り、基礎的な画像修正、加工、色調補正などの操作ができる。（知識・技能） ・デジタルデザインの基礎的な制作手法を学び、様々なデジタルグラフィックスの制作法や課題解決の方法を探索し活用できる。（探究・継続力）	・IllustratorとPhotoshopを連携して使用し、専門教育科目の課題解決に活用できる。（課題発見・解決力） ・Adobe Illustratorの用途・機能を知り、基礎的な図形作成、変形、合成ができる。また、Adobe Photoshopの用途・機能を知り、基礎的な画像修正、加工ができる。（知識・技能） ・デジタルデザインの基礎的な制作手法を学び、簡単な図形制作、画像加工法を探索し活用できる。（探究・継続力）
サイエンスリサーチ演習	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	2	2	日常用いられる単位や数値の意味や価値、基本的な扱い方についてワークを通して実践的に理解する。また、人の感覚や好みを定量的に調査する官能評価、人のニーズや動向を知るアンケート調査のタイプと実施方法、得られたデータの取り扱い方などについてグループワークを通して理解する。これらを踏まえて、自由課題に取り組み、解決方法をグループで議論・活動し、成果を広めるためのPR動画を制作・プレゼンテーションすることで、これからの生活に必要なコンピテンシーを修得する。	・単位の種類や互換性、身の回りのものの性質や特徴について関心を持って、的確に説明できる。（知識・技能） ・科学的な思考を基に得られた結果を分析し、グループワークを通して課題を解決する方法を的確に議論することができる。（課題発見・解決力） ・グループで広報用の動画を作成し、効果的なプレゼンテーションを探究することで、聴講者を納得させる提案を行うことができる。（探究・継続力）（発想力・提案力） ・グループワークに積極的に参加し、また自分の役割を適切に行い他者を支援することで、リーダーシップを発揮することができる。（リーダーシップ）	・単位の種類や互換性、身の回りのものの性質や特徴について説明できる。（知識・技能） ・科学的な思考を基に得られた結果を分析し、グループワークを通して課題を解決する方法を議論することができる。（課題発見・解決力） ・グループで広報用の動画を作成し、効果的なプレゼンテーションを探究することで、聴講者に提案することができる。（探究・継続力）（発想力・提案力） ・グループワークを行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを行うことができる。（リーダーシップ）
キャリアデザイン演習（就職・編入サポート）	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	1	2	卒業後の進路について具体的な将来像や働き方を思い描き、その実現に向けて必要とする知識やスキル、仕事内容について業界で働く外部講師の講義を通して理解を深める。さらに、進路選択に必要とする自己分析やコミュニケーションスキルを高める方法を演習形式で学び身につける。	・将来像の実現に向けて、就職活動や編入学試験に必要な知識やスキルを身につけ、行動に示すことができる。（知識・技能） ・卒業後の進路について考え、具体的な将来像を思い描き、自分の言葉で示すことができる。（課題発見・解決力） ・関心を持つ業界について探究し、概要や仕事内容を詳しく説明できる。（探究・継続力） ・自己分析やワークを通して自己理解を深め、他者と協力し合いながら物事を進めていく共立のリーダーシップ4タイプを理解し、自分自身のタイプを把握し高めることができる。（リーダーシップ）	・将来像の実現に向けて、就職活動や編入学試験に必要な最低限の知識やスキルを身につけ、示すことができる。（知識・技能） ・卒業後の進路について考え、自分の言葉で示すことができる。（課題発見・解決力） ・関心を持つ業界について探究し、概要や仕事内容を説明できる。（探究・継続力） ・自己分析やワークを通して自己理解を深め、他者と協力し合いながら物事を進めていく共立のリーダーシップを理解し、高めることができる。（リーダーシップ）
キャリア実務基礎（公務員・SPI対応）	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	1	1	卒業後の進路選択に必要な基本的な知識やスキルの修得に向けて、公務員試験やSPI（Synthetic Personality Inventory：総合適性検査）に関する試験制度や概要を学び、理解を深める。さらに、過去の試験問題や例題を演習形式で学ぶことから試験問題の傾向と対策を理解し、対応能力を身につける。	・公務員試験やSPIに関する基本的な内容や学習方法を理解して、具体的に説明することができる。（知識・技能） ・公務員試験やSPIに関する演習問題を通して卒業後の進路選択に必要な知識やスキルを身につけ、課題を解決することができる。（課題発見・解決力） ・公務員試験やSPIに必要な知識やスキルを自ら計画を立て継続的に修得し、試験問題の傾向と対策を探究することができる。（探究・継続力）	・公務員試験やSPIに関する基本的な内容や学習方法を理解して、説明することができる。（知識・技能） ・公務員試験やSPIに関する演習問題を通して卒業後の進路選択に必要な知識を身につけ、最低限の課題を解決することができる。（課題発見・解決力） ・公務員試験やSPIに必要な知識やスキルを修得し、試験問題の傾向と対策をある程度探究することができる。（探究・継続力）

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
リテールマーケティング(販売士)	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	1	1	リテールマーケティング(販売士)とは、日本商工会議所が主催する公的資格である。この科目では、マーケティングの基本的な考え方や流通・小売業に必要な基礎知識・技能を理解し、接客や売場づくりなど、販売担当として必要な知識・技術を演習形式で修得する。リテールマーケティング(販売士)の資格を取得し、将来の実務に応用できる実践的な能力の修得を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>小売業の類型・マーチャンダイジング・ストアオペレーション・マーケティング・販売・経営管理についての知識・技能を理解し、具体的に説明することができる。(知識・技能)</li> <li>リテールマーケティングに関する知識・技能を活用して、接客や売場づくりなどで求められる課題を発見し、自らの判断で創造的に解決することができる。(課題発見・解決力)</li> <li>専門知識の修得を継続して行うことで、将来のキャリアを探究し、実践的な場面で能力を活用することができる。(探究・継続力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小売業の類型・マーチャンダイジング・ストアオペレーション・マーケティング・販売・経営管理についての知識・技能を理解し、説明することができる。(知識・技能)</li> <li>リテールマーケティングに関する知識・技能を活用して、接客や売場づくりなどで求められる課題を発見し、解決することができる。(課題発見・解決力)</li> <li>専門知識の修得を継続して行い、探究することで、実践的な場面で能力を活用することができる。(探究・継続力)</li> </ul>
医療事務入門	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	1	1	医療事務は、病院・クリニックなどで医療事務を担う専門職であり、医療事務検定は、医療事務協会が実施する資格・検定である。医療保険制度の専門的な知識から、医療事務の実践的なスキルである医療費算定の知識を修得するものであり、合格者は医療機関で活躍することが期待できる。この科目では、医療事務の資格や仕事内容を理解し、医療事務検定の合格に必要な基礎的な知識と技能を修得し、資格取得を目指すとともに医療や健康的な生活への意識を涵養する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療事務全体の資格や仕事内容を理解し、医療事務検定の合格および医療事務の仕事に従事する上で必要とされる専門的な知識・技能を理解し、具体的に説明することができる。(知識・技能)</li> <li>出題範囲である、患者接客、基本診療科、医療事務知識(医療保険制度や各種法令等、診療報酬算定等)に関して、修得した知識・技能を活用して、問題を解決することができる。(課題発見・解決力)</li> <li>医療保険制度の基礎知識、患者接客マナーや職場でのコミュニケーションスキル、医療費の算定方法等に関する知識を多角的に捉え、自ら問題に取り組み、修得した能力を継続して向上させることができる。(探究・継続力)</li> <li>医療事務検定に必要とされる知識・技能を生かして、日常生活に役立てることができる。(発想力・提案力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療事務全体の資格や仕事内容を理解し、医療事務検定および医療事務の仕事に従事する上で必要とされる専門的な知識・技能を理解し、説明することができる。(知識・技能)</li> <li>出題範囲である、患者接客、基本診療科、医療事務知識(医療保険制度や各種法令等、診療報酬算定等)に関して、修得した知識・技能を活用して、最低限の問題を解決することができる。(課題発見・解決力)</li> <li>医療保険制度の基礎知識、患者接客マナーや職場でのコミュニケーションスキル、医療費の算定方法等に関する知識を基に、修得した能力を継続させることができる。(探究・継続力)</li> <li>医療事務検定に必要とされる最低限の知識・技能を生かして、日常生活にある程度役立てることができる。(発想力・提案力)</li> </ul>
チャレンジ・ゼミナール(就職・編入チャレンジ)	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	1	1	早い時期から卒業後の進路について考え、情報を集めることは、在学中の学習にとっても、さらに長い人生においても大切なことである。この科目では、生活科学科の特別講義やイベント、学生支援課の進路支援プログラム、正課外講座等への参加を積み重ね、卒業後の進路についての学習を深め、準備する。これらの活動状況を報告書にまとめ、担当教員との面談・指導を受けながら進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職活動・編入学等の進路選択に必要な知識・技能を充分に理解・修得できる。(知識・技能)</li> <li>高い洞察力、判断力を身につけ、必要な学習を実践的に取捨選択できる。(課題発見・解決力)</li> <li>進路に関連する在学中の学習に関心を持ち、積極的に取り組み探求する能力を身につけ、自身の活動として主体的に実践することができる。(探究・継続力)</li> <li>就職や編入学への取り組みについて、ゼミナールのメンバー間の意見を汲み取り、自分の意見を積極的に発言し、他者を支援しながら、将来の目標を明確に描き、行動することができる。(リーダーシップ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職活動・編入学等の進路選択に必要な知識・技能を理解・修得できる。(知識・技能)</li> <li>洞察力、判断力を身につけ、必要な学習を取捨選択できる。(課題発見・解決力)</li> <li>進路に関連する在学中の学習に関心を持ち、取り組み探求する能力を身につけ、自身の活動として実践することができる。(探究・継続力)</li> <li>就職や編入学への取り組みについて、ゼミナールのメンバー間の意見を汲み取り、自分の意見を発言し、行動することができる。(リーダーシップ)</li> </ul>
サービス・ラーニング	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	1	2	グループでの課題解決型学習と社会活動により、みずから待(た)のみ「自立」し、「友愛」により他者と協働して目標達成を目指す力(共立リーダーシップ)を養う。グループでのディスカッション・作業や実地での社会活動を通じて、課題の内容を客観的に把握し、有効な解決策を導き出すための基本的能力を身につける。また、他者を論理的に説得するために必要な基本的スキルを修得する。さらに、上記の活動を適切に振り返ることで、今後の学業や進路(キャリア)について新たな視座を得る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>多角的な視点から客観的に物事を理解し、主体的な判断のもと行動することができる。(幅広い教養)(知識・技能)</li> <li>社会活動を通じて課題を総合的に検討し、解決するための基礎的な能力を身につけている。(課題発見・解決力)(発想力・提案力)</li> <li>目標を明確に掲げ共有した上で、率先して行動し、他者との相互支援関係を作ること、創造的な協調活動を充分に行うことができる。(発想力・提案力)(リーダーシップ)</li> <li>他者との協働や社会活動での体験学習を通して、今後の学業や進路について新たな視座を得ることができる。(幅広い教養)(リーダーシップ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多角的な視点から客観的に物事を理解し、主体的な判断のもと行動することができる。(幅広い教養)(知識・技能)</li> <li>社会活動を通じて課題を総合的に検討し、解決するための基礎的な能力を最低限身につけている。(課題発見・解決力)(発想力・提案力)</li> <li>目標を明確に掲げ共有した上で、率先して行動し、他者との相互支援関係を作ること、創造的な協調活動を行うことができる。(発想力・提案力)(リーダーシップ)</li> <li>他者との協働や社会活動での体験学習を通して、今後の学業や進路について新たな視座を検討することができる。(幅広い教養)(リーダーシップ)</li> </ul>
卒業研究	生活科学科 専門教育科目 各コース共通	2	4	2年間の学修の集大成として、指導教員のもと生活科学科に関わる課題を見だし、研究や制作を行う。その成果を論文または作品にまとめ、卒業研究発表会において発表する。卒業研究の一員として、研究室に所属し、他者との協働によりリーダーシップを発揮しながら、長期間一つの課題に取り組むことにより課題解決能力を高め、発表を通してプレゼンテーション技能を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活科学科で培った2年間の知識・技能を応用し、自らのテーマを設定し、研究や制作において活用することができる。(知識・技能)</li> <li>研究テーマに即して、自分の考えを言葉や形で表現し、成果を論文や作品にまとめることができる。(課題発見・解決力)</li> <li>長期間一つの課題に積極的に取り組んで理解を深めることにより、基礎的な持続力や集中力を身につけることができる。(探究・継続力)</li> <li>研究成果や作品について論理的にプレゼンテーションすることができる。(発想力・提案力)</li> <li>研究室の一員として、メンバーとの意見の交換を積極的にを行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。(リーダーシップ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活科学科で培った2年間の知識・技能を応用し、自らのテーマを設定し、研究や制作において最低限活用することができる。(知識・技能)</li> <li>研究テーマに即して、自分の考えを言葉や形で表現し、成果を最低限の論文や作品にまとめることができる。(課題発見・解決力)</li> <li>長期間一つの課題に取り組んで理解することにより、最低限の持続力や集中力を身につけることができる。(探究・継続力)</li> <li>研究成果や作品についてプレゼンテーションすることができる。(発想力・提案力)</li> <li>研究室の一員として、メンバーとの意見の交換を行い、自らの考えをある程度示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。(リーダーシップ)</li> </ul>
メディア社会論	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	1	2	情報の入手や流通においてデジタルメディアが重要な役割を持つようになったメディア社会について理解を深め、情報ネットワークが生活の様々な場面に及ぼす影響について考察する。メディアから得る情報は、日常生活を送る上で必要不可欠だけでなく、私たちの考え方や生き方にも大きな影響を与えていることから、メディアから得る情報の特質や傾向、さらには各メディアの特性や歴史などを正しく理解し、活用するための知識を涵養する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>アナログメディア、デジタルメディア全般を理解し、情報メディアの種類と特徴、それらがどのように発展してきたか、それらが持つ役割やリスクについて説明できる。(知識・技能)</li> <li>実社会の課題解決のために適切なメディアを選択して、情報発信の手段として有効かつ安全に利用できる。(課題発見・解決力)</li> <li>グループワークにおいて積極的に課題に取り組み、他者と協働しながら課題を完成しプレゼンテーションができる。(リーダーシップ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アナログメディア、デジタルメディア全般を理解し、情報メディアの種類と特徴、それらがどのように発展してきたか、各種メディアの相違点を説明できる。(知識・技能)</li> <li>実社会の課題解決のために適切なメディアを選択して有効かつ安全に利用できる。(課題発見・解決力)</li> <li>グループワークにおいて、他者と協働しながら課題を完成しプレゼンテーションができる。(リーダーシップ)</li> </ul>
ポップカルチャー論	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	1	2	ポップカルチャー(ポピュラーカルチャー)は、社会において広く一般の人々が楽しんでいる文化のことで、マンガ、アニメ、ファッション、料理など、私たちが日常よく目にするものが含まれている。これに対して芸術や演劇などの高尚な文化はハイカルチャー、マニアのための文化はサブカルチャーと呼ばれ、異なるジャンルの文化として区別されている。この科目では、様々なポップカルチャーの事例を見ながら、それらの特徴・魅力を分析し、国境を越えて広がるポップカルチャー(越境する文化)について議論しながら、グローバル時代の文化について考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポップカルチャー、サブカルチャー、ハイカルチャーの違い、文化のグローバル化、ローカリゼーションのメカニズムを理解し、日本の政治的、外交的資源としてのポップカルチャーの役割を説明できる。(知識・技能)</li> <li>海外で人気がある日本文化製品と日本が抱える諸課題との関連について分析し、日本文化製品によってそれらの課題を解決する方法を発見することができる。(課題発見・解決力)</li> <li>グループワークにおいて積極的に課題に取り組み、他者と協働しながら課題を完成しプレゼンテーションができる。(リーダーシップ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポップカルチャー、サブカルチャー、ハイカルチャーの違い、文化のグローバル化、ローカリゼーションのメカニズムを理解する。(知識・技能)</li> <li>日本社会が抱える諸課題を理解し、日本文化製品によってそれらの課題を解決する方法を発見することができる。(課題発見・解決力)</li> <li>グループワークにおいて、他者と協働しながら課題を完成しプレゼンテーションができる。(リーダーシップ)</li> </ul>

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
ソーシャルメディア演習	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	1	2	SNSをはじめとするソーシャルメディアが日常生活のみならず、災害時においても重要な情報網として機能することの理解を深めるとともに、ソーシャルメディアの安易な利用に伴うセキュリティやプライバシーに関わる問題にも注目することにより、正しく活用するための知識およびスキルを習得する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルメディアを簡単に定義し、ソーシャルメディアに分類される代表的なオンラインサービスを挙げて、それらのサービス内容を説明でき、サービス利用の際の個人情報漏洩、機密情報漏洩、犯罪、倫理等の諸問題について説明できる。(知識・技能)</li> <li>・異なるソーシャルメディアの特徴、目的、使用方法を理解し、ソーシャルメディアを活用して適切に情報収集および情報発信することができる。(発想力・提案力)</li> <li>・デジタル社会におけるリテラシーについて十分な知識を持ち、ソーシャルメディアを適切かつ安全に利用するための諸課題を発見・解決し、情報発信に活用することができる。(課題発見・解決力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルメディアについて理解し、代表的なソーシャルメディアの種類とサービス内容の違いを知り、それらを利用する際の個人情報漏洩、機密情報漏洩、犯罪、倫理等の諸問題について説明できる。(知識・技能)</li> <li>・異なるソーシャルメディアの特徴、目的、使用方法を理解し、ソーシャルメディアを活用して適切に情報収集および情報発信することができる。(発想力・提案力)</li> <li>・デジタル社会におけるリテラシーについて最低限の知識を持ち、ソーシャルメディアを安全に利用するための諸課題を発見・解決し、情報発信に活用することができる。(課題発見・解決力)</li> </ul>
メディアカルチャー演習	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	1	2	メディアという言葉は他の言葉(マス、デジタル、ソーシャル等)と組み合わせることでいろいろな新しいメディアの概念をつくりだしているが、いずれも「情報を伝達する」という共通した社会的役割を果たしている。この科目では、様々な「メディア」を調査研究のツールとして、社会現象を社会的に調査・分析する。デジタル・メディアを活用したエソグラフィーなどの定性的調査方法により、現代社会の諸課題を発見し、課題解決の能力を涵養する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアに関する様々な用語の定義および社会調査法の基本を理解し、様々なデジタルメディア機器を活用して、フィールドワーク調査を実施できる。(知識・技能)</li> <li>・フィールドワークで集めたデータ(写真、動画、フィールドノーツ等)を社会的および文化的視点から考察・分析して、課題を発見し、解決する能力を身に付ける。(課題発見・解決力)</li> <li>・グループワークにおいて積極的に課題に取り組み、他者と協働しながらフィールドワーク課題を完成しプレゼンテーションができる。(リーダーシップ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアに関する様々な用語の定義を理解し、デジタルメディア機器を活用して、フィールドワーク調査を実施できる。(知識・技能)</li> <li>・フィールドワークで集めたデータ(写真、動画、フィールドノーツ等)から、課題を発見し、解決する能力を身に付ける。(課題発見・解決力)</li> <li>・グループワークにおいて、他者と協働しながらフィールドワーク課題を完成しプレゼンテーションができる。(リーダーシップ)</li> </ul>
情報メディア演習	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	2	2	本演習では、情報メディアを色彩の側面から考察し、色彩力を涵養する。グローバルスタンダードなマンセルシステムを基に、美しい色と色の組み合わせ、色と形の効果的な関係、色と形の大きさやプロポーションとの関わりなど、色彩と形体の造形表現を踏まえ、実践的な配色テクニックについてデザインの視座から学修する。魅力ある色彩で、人を惹きつけるための配色の基本システムと活用法を理解し、造形力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本となる色彩システムを深く理解し、色彩理論、色彩調和を理解した上で、実践的な色彩感覚を適用することができる。(知識・技能)</li> <li>・色彩生成、配色のさまざまな課題に対応した高い能力を示す制作ができる。(課題発見・解決力)</li> <li>・造形表現における配色について具体的に評価し、高い能力を示す新たな提案ができるようになる。(発想力・提案力)</li> <li>・ユニバーサルカラーの重要性を十分に理解し、他者を支援する配色理論の実践について具体的に提案できるようになる。(リーダーシップ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本となる色彩システムを理解し、色彩理論、色彩調和を理解した上で、基礎的な色彩感覚を適用することができる。(知識・技能)</li> <li>・色彩生成、配色のさまざまな課題に対応した基礎的な能力を示す制作ができる。(課題発見・解決力)</li> <li>・造形表現における配色について評価し、新たな提案ができるようになる。(発想力・提案力)</li> <li>・ユニバーサルカラーの重要性を理解し、他者を支援する配色理論の実践について具体的に提案できるようになる。(リーダーシップ)</li> </ul>
サステイナブル社会論	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	2	2	サステイナビリティ(持続可能性)は21世紀の社会を形作る上で重要な概念であることを学ぶ。人間の活動が地球環境に与える影響を知り、気候変動、生物多様性、SDGsなどの地球環境問題の解決や持続可能な暮らしについて理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サステイナビリティの概念を理解し、日本が抱える環境問題・課題を知り、それらを解決するための方策について説明できる。(知識・技能)</li> <li>・日本が目指すべき持続可能な社会の在り方を考察し、サステイナブルな社会の実現に向けて、身近な問題を見つけていることができる。(課題発見・解決力)</li> <li>・日々の暮らしの中で、気候変動、生物多様性、SDGsなどの地球環境問題に関心を持ち、自分事として深く考究する態度を身につけることができる。(探究・継続力)</li> <li>・グループワークを積極的に行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。(リーダーシップ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サステイナビリティとは何かを説明し、日本の環境に関する諸問題を知り、課題解決の方策および日本にとって持続可能な社会とは何かを説明できる。(知識・技能)</li> <li>・サステイナブルな社会の実現に向けて、身近な問題を見出し、調査することができる。(課題発見・解決力)</li> <li>・日々の暮らしの中で、気候変動、生物多様性、SDGsなどの地球環境問題に関心を持ち、自分事として考究する態度を身につけることができる。(探究・継続力)</li> <li>・グループワークを行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを行うことができる。(リーダーシップ)</li> </ul>
健康メディア論	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	1	2	健康とは、身体的、精神的、社会的に満たされた状態をいう。健康の概念について、WHOの定義等をはじめ、健康の考え方の変遷を理解する。それぞれのライフステージにおいて、健康を維持するために必要な睡眠、食事、運動、ストレス対処などを学ぶ。その上で、健康とメディアの関連について、健康情報が氾濫するなかで、正しい判断を行ったリ、健康状況をモニタリングすることのメリットについて考察する。現代社会に生きる私たちが取り巻く健康に関する情報環境に目を向けながら、健康的な生活を営んだり、他者に対して健康のアドバイスができるような知識と提案力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康に関連する知識について、健康の概念やライフステージに応じた健康増進の方法について十分に理解し、説明することができる。(知識・技能)</li> <li>・マスメディアやSNSで紹介される健康情報を調査・分析し、専門的な立場から、内容を精査し、活用することができる。(知識・技能)</li> <li>・健康な生活を送ったり、健康寿命を延ばすために、望ましいメディアを表現したり、提案することができる。(発想力・提案力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康に関連する知識について、健康の概念やライフステージに応じた健康増進の方法について理解できる。(知識・技能)</li> <li>・マスメディアやSNSで紹介される健康情報を調査することができる。(知識・技能)</li> <li>・健康な生活を送ったり、健康寿命を延ばすために、望ましいメディアを表現できる。(発想力・提案力)</li> </ul>
健康メディア演習	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	1	2	マスメディアやSNSには、健康に関する様々な情報が提供されている。ダイエットやサブリの摂取、エステティック、トレーニング、健康器具など、健康情報を伝える媒体に対するメディアリテラシーを理解する。既存のアプリで自身の健康状況をモニタリングし、適切に管理や整理する方法を修得したり、グループワークで健康メディアに関するコンテンツを集めて編集を行い、健康情報を正しく効果的に伝えるための表現技法を修得する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康に関連する情報について、多様なメディアの事例をもとに、優れているコンテンツや問題点を見出し、自身の演習に生かすことができる。(課題発見・解決力)</li> <li>・既存のアプリやSNSを使用者の立場から分析した上で、ライフステージの異なる対象者に応じて、有益なメディア表現を具現化させることができる。(発想力・提案力)</li> <li>・演習内容をよく理解し、グループでコミュニケーションをはかりながらメンバーを支援し、リーダーシップを発揮することができる。(リーダーシップ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康に関連する情報について、メディアの事例を自身の演習に生かすことができる。(課題発見・解決力)</li> <li>・既存のアプリやSNSを使用者の立場から分析した上で、メディア表現を具現化させることができる。(発想力・提案力)</li> <li>・グループコミュニケーションをはかりながらリーダーシップを発揮することができる。(リーダーシップ)</li> </ul>
女性の健康と心理	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	1	2	女性は女性ホルモンによって制御されたライフステージを持つことが特徴である。女性の健康と心理の講義において、女性として自分の心身を理解した上で、女性のライフサイクルにおける健康的、精神的な問題に関する基本的な知識について理解し、心と身体の健康維持・増進のための様々な手法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性のライフサイクルやライフサイクルにおける心と身体の健康問題について理解し、その特徴を、複数の事例を挙げて事例を挙げて説明できる。さらに、それらの問題を解決するための様々な手法を理解し、事例を挙げて説明できる。(知識・技能)</li> <li>・グループワークを通して、グループ内での役割を全うし、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。(リーダーシップ)</li> <li>・日頃から心と身体の健康維持・増進に対する詳細な取り組みが実践できる。(探究・継続力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性のライフサイクルやライフサイクルにおける心と身体の健康問題の基本を理解し、少なくとも1つの事例を挙げて基本的な事項について説明できる。さらに、それらの問題を解決するための基本的な手法を理解し、基本的な事項について説明できる。(知識・技能)</li> <li>・グループワークを通して、グループ内での役割を理解し、他者を支援することでリーダーシップを示すことができる。(リーダーシップ)</li> <li>・日頃から心と身体の健康維持・増進に対する基本的な取り組みが実践できる。(探究・継続力)</li> </ul>
ライフステージと栄養(演習)	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	2	2	ヒトはこの世に生を受けてから成長し、やがて老い、人生を全うする。この一連のライフサイクルを健康で幸せに過ごすためには、各ライフステージにおいて生活習慣を整えることが求められる。ライフステージと健康に関する演習において、各ライフステージでの体の変化を知り、各ライフステージに特徴的な健康問題を理解する。さらに、それらの健康問題を解決するための様々な手法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期から高齢期までの各ライフステージの特徴を理解し、それぞれのライフステージにおいて求められる生活習慣、健康問題について、具体的に継続して示すことができる。(探究・継続力)</li> <li>・栄養素の化学的性質や代謝、消化酵素について理解を深めることができ、複数の事例を挙げて詳細に説明できる。(知識・技能)</li> <li>・栄養計算ソフトが使用できるようになり、得られた結果を用いた説明ができる。(知識・技能)</li> <li>・各ライフステージの健康問題を理解するためにグループワークを行い、自分自身の意見を他者に的確に伝え、他者を支援することにより、リーダーシップを発揮することができる。(課題発見・解決力)(リーダーシップ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期から高齢期までの各ライフステージの特徴について基礎的な事項を理解し、それぞれのライフステージにおいて求められる生活習慣、健康問題について、継続して示すことができる。(探究・継続力)</li> <li>・栄養素の化学的性質や代謝、消化酵素について、少なくとも1つの事例を挙げて基本的な事項を説明できる。(知識・技能)</li> <li>・栄養計算ソフトが使用できる。(知識・技能)</li> <li>・各ライフステージの健康問題を理解するためにグループワークを行い、自分自身の意見を他者に伝え、他者を支援することにより、リーダーシップを示すことができる。(課題発見・解決力)(リーダーシップ)</li> </ul>

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位評価目標 (成績評価C)
フィットネス&ウェルネス演習	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	2	2	フィットネスとは、元来は体力を意味するが、現在では健康の維持・増進のために行う運動も指す。ウェルネスとは、健康を基盤とし、よりよく生きるための生活を目指す比較的新しい概念である。この科目では、ウェルネスを目指してフィットネスを実践するものであり、健康づくりのための運動の知識や技能を学び、健康づくりを目的として作成された運動プログラム（体力測定、ストレッチング、エクササイズなど）をもとに、他者への提案や助言を行うことができる能力を修得する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィットネスおよびウェルネスに必要な基本的な知識や技能を身につけることができる（知識・技能）</li> <li>・毎日よりよく健康に過ごすには、どのような健康づくりのための運動が必要か、具体的に示し的確に行うことができる（課題発見・解決力）</li> <li>・学んだ知識を生かして、健康づくりのための運動プログラムを的確に示し、他者への提案や助言を具体的に示すことができる。（発想力・提案力）</li> <li>・グループでコミュニケーションをはかりながら行動し、実習を円滑に進めることができる（リーダーシップ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィットネスおよびウェルネスに必要な最低限の知識や技能を身につけることができる（知識・技能）</li> <li>・毎日よりよく健康に過ごすには、どのような健康づくりのための運動が必要か、示し行うことができる（課題発見・解決力）</li> <li>・学んだ知識を生かして、健康づくりのための運動プログラムを示し、他者への提案や助言を示すことができる。（発想力・提案力）</li> <li>・グループでコミュニケーションをはかりながら行動し、実習に参加することができる。（リーダーシップ）</li> </ul>
ビューティー&ウェルネス演習	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	2	2	女性の社会進出とともに2015年には「女性活躍推進法」が施行され、美しく健康な身体・毎日の生活や人生をアクティブに過ごすことが求められている。ウェルネスとは、1960年代に米国のハルバード博士が提唱した「健康を基盤とし、よりよく生きるための生活を目指す」概念である。この科目では、ウェルネスを目指してビューティケアを実践するものであり、ボディケアやスキンケア、メイクアップ、ファットネス、ストレスケアなど健康美を高め維持するためのメカニズムやケアに関する知識や技能を修得し、年齢に応じた効果的な行動を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美しく健康な身体や生活の維持に必要なケアに関する基本的な知識や技能を身につけることができる（知識・技能）</li> <li>・毎日より美しく健康に過ごすには、どのようなビューティケアが必要か、具体的に示し的確に行うことができる（課題発見・解決力）</li> <li>・グループワークを積極的に行い、自らの考えを示し、他者を支援することで成果を高めることができる。（リーダーシップ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美しく健康な身体や生活の維持に必要なケアに関する最低限の知識や技能を身につけることができる（知識・技能）</li> <li>・毎日より美しく健康に過ごすには、どのようなケアが必要か、示し行うことができる（課題発見・解決力）</li> <li>・グループワークを行い、自らの考えを示し、他者を支援することができる。（リーダーシップ）</li> </ul>
メディアデザイン論	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	1	2	現代社会におけるデジタルメディアの現状と今後の可能性を概説し、メディアデザインについて考察する。メディアデザインはグローバル化が進む中で、膨大な情報や多様な価値観が交錯する現代社会におけるコミュニケーションやデザインの一翼を担っている。アイデンティティとしてのメディアデザインを理解することによって、これらのメディア文化に対するリテラシーを身につけていく方法論も考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形的な観点からメディアの歴史について解釈し、メディア文化を客観的に説明することができる。（知識・技能）</li> <li>・造形原理を理解しながら、「造形」「デザイン」「空間」「環境」をキーワードとしてメディアデザインについて詳しく述べることができる。（探究・継続力）</li> <li>・メディアのリテラシーを身につけて、造形、デザインの今後のあるべき姿について説明することができる。（発想力・提案力）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形的な観点からメディアの歴史について解釈し、メディア文化を簡単に説明することができる。（知識・技能）</li> <li>・造形原理を理解しながら、「造形」「デザイン」「空間」「環境」をキーワードとしてメディアデザインについて述べることができる。（探究・継続力）</li> <li>・メディアのリテラシーを身につけて、造形、デザインの今後のあるべき姿について簡単に説明することができる。（発想力・提案力）</li> </ul>
CG演習A(イラストレーター)	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	1	2	コンピュータを造形表現のツールとしたデジタルデザインを学ぶ。Macintoshの基本的な操作からスタートし、2D/3Dデザインの基礎となるIllustratorをデザインツールとして修得、デザインの基礎造形力を涵養する。また、DTP（デスクトップ・パブリッシング）の基礎を習得しながら、デジタルカラー、デジタルフォント、画像処理等の知識ベースを学ぶ。作品制作を通して、実践的なデザイン・ワークフローを修得する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Adobe Illustratorによる基礎技能を習得し、ビジュアル表現に適用できる。（知識・技能）</li> <li>・デザインワークフローを踏まえた実践的なデジタルデザイン手法を理解し、作品制作ができる。（探究・継続力）</li> <li>・手順を組み立てて工夫しながら、イメージ通りのビジュアルを自由に作成できる。（課題発見・解決力）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Adobe Illustratorによる基礎技能を習得し、基礎的なビジュアル表現に適用できる。（知識・技能）</li> <li>・デザインワークフローを踏まえた基礎的なデジタルデザイン手法を理解し、作品制作ができる。（探究・継続力）</li> <li>・基本的な手順を組み立てて、基礎的なビジュアルを作成できる。（課題発見・解決力）</li> </ul>
CG演習B(フォトショップ)	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	1	2	コンピュータを造形表現のツールとしたデジタルデザインを学ぶ。CG演習A（イラストレータ）で習得した内容に加え、デジタルカラー（CMYK/RGB）、カラーマネージメント、画像レタッチ等のPhotoshopの基礎的なオペレーションと同時に、ビットマップ画像処理を涵養する。そのうえで、Illustratorとの連携作業を習得しながら、DTP（デスクトップ・パブリッシング）の応用的なトレーニングで実践的な作品制作を行う。CG演習A（イラストレータ）と合わせ、デジタルデザインの体系的な作品制作能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Adobe Photoshopによる基礎技能を習得し、ビジュアル表現が自由に適用できる。（知識・技能）</li> <li>・画像データを元に、画像レタッチ等のコマンド機能を自由に操作し、画像設計をイメージ通りに補正できる。（探究・継続力）</li> <li>・デザインワークフローを踏まえた実践的なデジタルデザイン手法を工夫し、作品制作ができる。（課題発見・解決力）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Adobe Photoshopによる基礎技能を習得し、基礎的なビジュアル表現に適用できる。（知識・技能）</li> <li>・画像データを元に、画像レタッチ等のコマンド機能を操作し、画像設計をほぼイメージ通りに補正できる。（探究・継続力）</li> <li>・デザインワークフローを踏まえた基礎的なデジタルデザイン手法を工夫し、作品制作ができる。（課題発見・解決力）</li> </ul>
動画制作演習Ⅰ	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	1	2	映像制作の基礎となる動画撮影のスキルやカメラの操作、編集作業のプロセスとスキルを修得し、メディアとしての映像表現に活かしていく方法を学ぶ。iMovieやAdobe Premiere Proなどの映像編集アプリケーションを活用しながら映像の概念、企画、撮影方法などを理解し、実践的な作品制作のプロセスにつける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画撮影のスキルやカメラの操作、編集作業のプロセスについて詳しく説明できるようになる。（知識・技能）</li> <li>・映像編集アプリケーションを習得し、さまざまな動画の制作手法を実践できるようになる。（探究・継続力）</li> <li>・映像の概念、企画、撮影方法などを理解し、実践的な作品制作ができるようになる。（発想力・提案力）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画撮影のスキルやカメラの操作、編集作業のプロセスについて簡単に説明できるようになる。（知識・技能）</li> <li>・映像編集アプリケーションを習得し、動画の基礎的な制作手法を実践できるようになる。（探究・継続力）</li> <li>・映像の概念、企画、撮影方法などを理解し、基礎的な作品制作ができるようになる。（発想力・提案力）</li> </ul>
動画制作演習Ⅱ	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	2	2	動画制作演習Ⅰで学んだ知識やスキルをもとに、ノンリニア映像編集の応用的な手法を身につける。静止画、動画、音声などの映像素材データの取り扱い、それらの素材に対する加工・編集方法を学ぶ。ストーリー構築・撮影・編集のワークフローを組み立て、視覚的な訴求効果が高い作品制作を目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・iMovieやAdobe Premiere Proの操作を解釈し、ワークフローを踏まえた高度なノンリニア映像編集ができる。（知識・技能）</li> <li>・ストーリー構築・撮影・編集を組み工夫しながら、イメージ通りの映像を自由に制作できる。（探究・継続力）</li> <li>・コンテンツの魅力が伝わる訴求効果の高い映像作品が制作できる。（課題発見・解決力）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・iMovieやAdobe Premiere Proの操作を解釈し、ワークフローを踏まえた基礎的なノンリニア映像編集ができる。（知識・技能）</li> <li>・ストーリー構築・撮影・編集を組み工夫しながら、映像を制作できる。（探究・継続力）</li> <li>・コンテンツの魅力が伝わる映像作品が制作できる。（課題発見・解決力）</li> </ul>
DTP演習	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	2	2	CG演習をベースとしたMacintoshによるDTP（デスクトップ・パブリッシング）の基礎を学ぶ。Photoshop、Illustratorを併用させたデジタルデザインを習得する。色彩構成の基礎を題材に色彩感覚、配色方法、構図、レイアウトの実習などの作品制作を通して、DTPの実践的なデザイン・ワークフローの理解を目指す。アイデアを具現化する面白さとデジタル表現の可能性を体験し、造形力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Adobe Photoshop、Illustratorの操作を解釈し、デザインワークフローを踏まえた高度なデジタルデザイン制作ができる。（知識・技能）</li> <li>・手順を組み立てて工夫しながら、イメージ通りのビジュアルを自由に作成できる。（探究・継続力）</li> <li>・実践的なDTP作品制作ができる。（課題発見・解決力）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Adobe Photoshop、Illustratorの操作を解釈し、デザインワークフローを踏まえたデジタルデザイン制作ができる。（知識・技能）</li> <li>・手順を組み立てて工夫しながら、イメージ通りのビジュアルを作成できる。（探究・継続力）</li> <li>・基礎的なDTP作品制作ができる。（課題発見・解決力）</li> </ul>
アニメーション制作演習	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	2	2	CGアニメーションの原理を学びながら、Adobe Animateによるアニメーション制作手法を学ぶ。また、人の運動知覚を利用して、効果的な動画表現を習得する。Photoshop、Illustratorと連携させながら、さまざまなアニメーション制作手法を通して、実践的なワークフローを身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルイメージ、デジタルカラーについて詳しく説明できるようになる。（知識・技能）</li> <li>・Adobe Animateによるモーショングラフィックス（動画）を習得し、さまざまな動画の制作手法を実践できるようになる。（探究・継続力）</li> <li>・人の知覚の仕組みを解釈し、より効果的な動画表現ができるようになる。（発想力・提案力）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルイメージ、デジタルカラーの基礎について説明できるようになる。（知識・技能）</li> <li>・Adobe Animateによるモーショングラフィックス（動画）を習得し、基本的な制作手法を実践できるようになる。（探究・継続力）</li> <li>・人の知覚の仕組みを解釈し、基礎的な動画表現ができるようになる。（発想力・提案力）</li> </ul>
Webデザイン演習Ⅰ	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	2	2	CG演習をベースにMacintoshによるWebデザイン制作を学ぶ。Adobe Photoshop・Illustratorを連携させた画像補正とリサイズ、色調修正、Webカラー、デジタルフォント、ビットマップイメージ設計を身につけて、Webデザインのコンテンツ構築及びレイアウトデザインを習得する。共通テーマに基づいた課題制作を通じて、実践的なサイトデザインのワークフローの理解を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Adobe DreamweaverによるWebサイトコンテンツ構築への展開について詳しく説明できる。（知識・技能）</li> <li>・CG演習A・Bを踏まえた、Adobe Photoshop・Illustratorによる素材制作の操作ができる。（探究・継続力）</li> <li>・デザイン性の高いWebサイトを制作できる。（課題発見・解決力）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Adobe DreamweaverによるWebサイトコンテンツ構築への展開の基礎的事項について説明できる。（知識・技能）</li> <li>・CG演習A・Bを踏まえた、Adobe Photoshop・Illustratorによる基礎的な素材制作の操作ができる。（探究・継続力）</li> <li>・基礎的なWebサイトを制作できる。（課題発見・解決力）</li> </ul>
Webデザイン演習Ⅱ	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	2	2	Webデザイン演習Ⅰで学んだ知識やスキルをもとに、応用的なWebサイト制作を身につける。様々なWebサイトやバナー広告を観察し、ターゲットに応じた配色やレイアウトなどのデザイン力を養う。また、ユニバーサルデザインを踏まえた視認性の高いWebサイトやバナー広告を制作し、実践的なデザイン力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ターゲットに合わせた適切なWebサイトコンテンツを制作できる。（知識・技能）</li> <li>・サイトの目的と内容について理解した上で、ユニバーサルデザイン（ユーザビリティ、アクセシビリティ）に配慮したレイアウトを考え、高度なサイトデザインを制作できる。（探究・継続力）</li> <li>・情報デザインの観点から、よりわかりやすく、使いやすいウェブサイトを制作する高度な技術を実践できる。（課題発見・解決力）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ターゲットに合わせたWebサイトコンテンツを制作できる。（知識・技能）</li> <li>・サイトの目的と内容について理解した上で、ユニバーサルデザイン（ユーザビリティ、アクセシビリティ）に配慮したレイアウトを考え、サイトデザインを制作できる。（探究・継続力）</li> <li>・情報デザインの観点から、よりわかりやすく、使いやすいウェブサイトを制作する基礎的な技術を実践できる。（課題発見・解決力）</li> </ul>

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
ITパスポート論	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	1	2	ITパスポート試験は、ITを利活用するすべての社会人・学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験である。現代社会においては、文系・理系を問わずITの基礎知識は必要不可欠であり、常に最新の情報を取得しておく必要がある。この講義では、ITパスポート試験合格に必要な基礎的な知識と技能を習得し、情報技術全般についての理解を深め、ITパスポート試験合格を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ITパスポート試験およびIT社会で働くうえで必要とされる「ITに関する基礎知識」の概要について総括的に説明することができる。(知識・技能)</li> <li>出題分野であるストラテジ系(一般業務に関する分野)、マネジメント系(システム管理に関する分野)、テクノロジ系(情報技術に関する分野)の知識や用語を論理的に理解し、問題を解決することができる。(課題発見・解決力)</li> <li>コンピュータシステム、データベース、ネットワーク、情報セキュリティ、情報デザイン、情報メディアに関する知識を継続的に修得し、オフィスツールを適切に活用することができる。(探究・継続力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ITパスポート試験およびIT社会で働くうえで必要とされる「ITに関する基礎知識」の概要について最低限総括的に説明することができる。(知識・技能)</li> <li>出題分野であるストラテジ系(一般業務に関する分野)、マネジメント系(システム管理に関する分野)、テクノロジ系(情報技術に関する分野)の知識や用語を理解し、基礎的な問題を解決することができる。(課題発見・解決力)</li> <li>コンピュータシステム、データベース、ネットワーク、情報セキュリティ、情報デザイン、情報メディアに関する知識を修得し、オフィスツールを活用することができる。(探究・継続力)</li> </ul>
ITパスポート演習	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	1	2	ITパスポート試験は、ITを利活用するすべての社会人・学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験である。ITパスポート試験合格を目指す。試験科目であるストラテジ系(経営全般)、マネジメント系(IT管理)、テクノロジ系(IT技術)に準拠した課題演習を数多く行うことで理解を深め、創造的で確かな情報基盤力を身に付けることでITパスポート試験合格を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ITパスポート試験およびIT社会で働くうえで必要とされる「ITに関する基礎知識」の基本的な内容について具体的に説明することができる。(知識・技能)</li> <li>出題分野であるストラテジ系(経営全般)、マネジメント系(IT管理)、テクノロジ系(IT技術)の演習問題を通してITに関する総合的な学力を身に付け、課題を解決することができる。(課題発見・解決力)</li> <li>ITパスポート試験合格に必要な学習について、自ら計画を立て継続的に、試験に合格することができる。(探究・継続力)</li> <li>コンピュータシステム、データベース、ネットワーク、情報セキュリティ、情報デザイン、情報メディアに関する知識を総合的に応用し、オフィスツールを活用し解決策を積極的に提案することができる。(発想力・提案力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ITパスポート試験およびIT社会で働くうえで必要とされる「ITに関する基礎知識」の基本的な内容について説明することができる。(知識・技能)</li> <li>出題分野であるストラテジ系(経営全般)、マネジメント系(IT管理)、テクノロジ系(IT技術)の演習問題を通してITに関する学力を身に付け、最低限の課題を解決することができる。(課題発見・解決力)</li> <li>ITパスポート試験合格に必要な学習について、自ら計画を立て継続的に取り組むことができる。(探究・継続力)</li> <li>コンピュータシステム、データベース、ネットワーク、情報セキュリティ、情報デザイン、情報メディアに関する知識を応用し、オフィスツールを活用し解決策を提案することができる。(発想力・提案力)</li> </ul>
ITパスポート活用演習(ワークショップ)	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	2	2	ITパスポート試験は、ITを利活用するすべての社会人・学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験である。社会人として共通に備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識を演習を通して習得し、応用して活用できるスキルを身に付け、ITパスポート試験合格を目指す。また、グループでワークショップ課題に取り組むことで、コミュニケーション力やリーダーシップ力を涵養する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ITパスポート試験およびIT社会で働くうえで必要とされる「ITに関する基礎知識」の詳細について具体的に説明することができる。(知識・技能)</li> <li>業務課題に関するデータを簡単な解析手法と情報技術を利用した的確に分析し、問題点の把握を行うことができる。(課題発見・解決力)</li> <li>ITパスポート試験合格に必要な学習について、自ら計画を立て継続的に、試験に合格することができる。(探究・継続力)</li> <li>ワークショップ課題に対して自分なりの解決案を提示したり他者に意見を聞いて検討することで、問題分析や問題解決を積極的に図ることができる(発想力・提案力)(リーダーシップ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ITパスポート試験およびIT社会で働くうえで必要とされる「ITに関する基礎知識」の詳細について説明することができる。(知識・技能)</li> <li>業務課題に関するデータを簡単な解析手法と情報技術を利用して分析し、問題点の把握を概ね行うことができる。(課題発見・解決力)</li> <li>ITパスポート試験合格に必要な学習について、自ら計画を立て継続的に取り組むことができる。(探究・継続力)</li> <li>ワークショップ課題に対して自分なりの解決案を提示したり他者に意見を聞いて検討することで、最低限の問題分析や問題解決を図ることができる(発想力・提案力)(リーダーシップ)</li> </ul>
データ解析演習	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	1	2	科学(自然科学・社会科学)では、実験、観察、面接、調査等の方法により人間の行動や自然の法則性を見いだそうとしている。この科目では調査法で得られたデータを統計ソフトのSPSSを用いて解析を行い、レポート(調査報告書)の作成を通して、実証的な研究の進め方を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>実証的な研究の進め方について理解し、定量的な調査法で得られたデータ分析をとおして、実社会の諸課題をたえらえることができる。(探究・継続力)</li> <li>統計ソフトウェア(SPSS)を用いたデータの入力および目的に沿った適切な解析を行うことができる。(知識・技能)</li> <li>研究調査を行う際の倫理的な配慮の必要性について知り、調査目的に沿った適切な調査を実施し、得られた結果から課題を発見し、解決する能力を身に付ける。(課題発見・解決力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>統計ソフトウェア(SPSS)を用いたデータの入力および目的に沿った分析を行うことができる。(知識・技能)</li> <li>研究調査を行う際の倫理的な配慮の必要性について知り、調査目的に沿った調査を実施し、得られた結果から最低限の課題を発見し、解決する能力を身に付ける。(課題発見・解決力)</li> <li>実証的な研究の進め方について理解し、定量的な調査法で得られたデータ分析をとおして、実社会の諸課題をある程度たえらえることができる。(探究・継続力)</li> </ul>
マーケティングリサーチ演習	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	2	2	人間の意識や行動を方向付けている基準は、価値の多元化が進む現代においては、その基準も一義的ではなくなってきていることから、その多様性を追究する方法論としてのマーケティング・リサーチのプロセスを明確に理解し、その手法、データの収集・整理や解析方法、報告書作成に関する実践的なスキルやノウハウを習得する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>マーケティングリサーチを実施することにより、実社会の諸課題を探求し、継続的に課題解決を姿勢を身に付ける。(探究・継続力)</li> <li>マーケティングリサーチの役割、プロセス、マーケティングとは何かを理解し、調査を通してデータの収集・整理や解析方法、報告書作成に関するスキルやノウハウを身に付ける。(知識・技能)</li> <li>グループワークにおいて積極的に課題に取り組み、他者と協働しながらマーケティングリサーチ課題を完成し、報告書を作成できる。(リーダーシップ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マーケティングリサーチにより、実社会の諸課題を探求する姿勢を身に付ける。(探究・継続力)</li> <li>マーケティングリサーチの調査を通してデータの収集・整理や解析方法、報告書作成に関するスキルを身に付ける。(知識・技能)</li> <li>グループワークにおいて、他者と協働しながらマーケティングリサーチ課題に取り組み、報告書を作成できる。(リーダーシップ)</li> </ul>
フードマーケティング演習	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	2	2	食料経済の発展段階からみて、現在は、食料の生産から消費までの過程に、食品加工業・流通業・外食産業が介在する第4段階目といわれ、この全体の流れをフードシステムという。フードシステムにおける食品流通・食料経済の実態と、これらを理解するための基本的知識と考え方について理解する。さらに食品流通を分析するために経済の基礎的な概念を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品流通が食品の安全性や環境に与える影響について説明することができる。(知識・技能)</li> <li>食品流通を分析するために必要なマイクロ経済学および商学の基礎概念について説明できる(課題発見・解決力)</li> <li>グループワークを積極的にを行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。(リーダーシップ)</li> <li>現在問題となっている食品流通に関する問題について主体的に取り組む、課題を解決する手法を提案できる(発想力・提案力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品流通が食品の安全性や環境に与える影響について最低限説明することができる。(知識・技能)</li> <li>食品流通を分析するために必要なマイクロ経済学および商学の基礎概念について最低限説明できる(課題発見・解決力)</li> <li>現在問題となっている食品流通に関する問題について取り組み、課題を解決する最低限の手法を提案できる(発想力・提案力)</li> <li>グループワークを行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。(リーダーシップ)</li> </ul>
フードデザイン論	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	2	フードデザインとは、単に栄養補給だけでなく、味や香り、食感、盛り付け、テーブルコーディネートなどにより、食生活を豊かにするため、食生活を総合的にデザインすることである。消費者・生活者が食生活について望ましい知識を持ち、また、その知識や生活技術を生かして実践するために、食品がどのような特性を持ち、調理過程において食品の組織や成分がどのように変化し、人間の身体や心にとどのような影響を及ぼすのかを理解し、社会のニーズや多様な食生活に応える食品のあり方を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理することの意義および心身が健康で豊かになるためのフードデザインについて総合的に説明できる。(知識・技能)</li> <li>食品が調理過程を経て、食事になるまでの工程や、商品が流通過程で起こる現象について、フードデザインの観点から、問題点や改善点を発見して、十分な考察ができる。(課題発見・解決力)</li> <li>調理の科学的な・食品との関連性を主体的に調べ、仮説を出して提案に臨み、自分なりの捉え方ができる。(探究・継続力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理することの意義および心身が健康で豊かになるためのフードデザインについて説明できる。(知識・技能)</li> <li>食品が調理過程を経て、食事になるまでの工程や、商品が流通過程で起こる現象について、フードデザインの観点から、考察ができる(課題発見・解決力)</li> <li>調理の科学的な・食品との関連性を調べ、自分なりの捉え方ができる。(探究・継続力)</li> </ul>
フードデザイン実習II(調理)	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	1	この科目では、フードデザイン実習Iで学んだ内容をふまえて、食品の特徴を理解した上で、基本調理から応用調理まで幅広く学び、その現象を調理科学的立場に立って確かめる。食事のテーマにふさわしい食卓について理解し、さらに食物と健康の関係からどのように食べ物を並び、組み合わせればよいか考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理に必要な詳細な調理理論について十分に理解、説明ができる。(知識・技能)</li> <li>日本料理、西洋料理、中国料理の調理操作をふまえて、フードデザインの視点から、探求的なレポートを作成することができる。(探究・継続力)</li> <li>調理特性が説明でき、グループワークを通じて、発想力・表現力を発揮し、コミュニケーションを円滑に行いながら実習に取り組むことができる。(発想力・提案力)</li> <li>実習内容をよく理解し、正しい結果が得られるように、グループでコミュニケーションをはかりながら行動し、実習を円滑に進めることができる。(リーダーシップ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理に必要な詳細な調理理論について理解できる。(知識・技能)</li> <li>日本料理、西洋料理、中国料理の調理操作をふまえて、フードデザインの視点から、レポートを作成することができる。(探究・継続力)</li> <li>グループワークを通じて、コミュニケーションを行いながら実習に取り組むことができる。(発想力・提案力)</li> <li>グループでコミュニケーションをはかりながら行動し、実習に参加することができる。(リーダーシップ)</li> </ul>

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
フードデザイン実習Ⅰ(調理)	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	1	人は、調理することで食品中に含まれる栄養素を効率的に吸収することにより、成長し健康を維持している。また、おいしく楽しい食事は、精神的にも満たされ、人間関係を構築する上でも必要不可欠である。この科目では、調理の目的や役割を理解し包丁の使い方、器具の扱い、食材の計量、野菜の切り方、火の扱い方、加熱調理の方法など調理の基本をふまえ、調理で起こる科学的な現象の理解を深めながら、目的に応じた献立をデザインし、日常生活において活用できることを目的とする。	・調理特性を正しく理解し、実習で十分に実践できる。(知識・技能) ・日本料理、西洋料理、中国料理の調理操作をふまえて、探求的なレポートを作成することができる。(探究・継続力) ・実習内容をよく理解し、正しい結果が得られるように、グループでコミュニケーションをはかりながら行動し、実習を円滑に進めることができる(リーダーシップ)	・調理特性を理解し、実習で実践できる。(知識・技能) ・日本料理、西洋料理、中国料理の調理操作をふまえて、レポートを作成することができる。(探究・継続力) ・グループでコミュニケーションをはかりながら行動し、実習に参加することができる(リーダーシップ)
フードメディア演習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	2	SNSの普及に伴い、専門的な知識の有無を問わず、ブログやInstagramには、様々な食に関する写真やレポート(食レポ)が掲載されている。本科目では、魅力的なレポートや写真に関する基本的な知識を習得し、効果的な情報伝達の手法について学ぶ。	・写真、映像撮影に使用する機材の種類、用途、特性、撮影方法を理解し十分に説明できる。(知識・技能) ・被写体や撮影環境に合わせて最適な撮影機材、撮影方法を選択して撮影し、撮影した写真や映像を必要に応じて適切に加工、修正、編集することができる。さらに、写真や映像を使って、ポスター、ブログ記事、動画等のコンテンツ作成ができる。(探究・継続力) ・作成したコンテンツを適切なソーシャルメディアでの情報共有に活用する。(発想力・提案力)	・写真、映像撮影に使用する機材の種類、用途、特性、撮影方法の基本等を理解し説明できる。(知識・技能) ・被写体や撮影環境に合わせて撮影機材、撮影方法を選択して撮影し、撮影した写真を使ってレポートなどを作成することができる。さらに、写真や映像を使って、ポスター、ブログ記事、動画等のコンテンツ作成を意識した準備を行うことができる(探究・継続力) ・習得した知識と技能をソーシャルメディアでの情報共有に活用する。(発想力・提案力)
フードコーディネート論	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	2	食べるということは私たちの毎日の生活に欠かすことのできない行為である。食卓はくつろぎの場であり、人間関係を培う場、また食文化を伝える場でもある。私たちの食環境をよく楽しく、心豊かな食生活を送るために、日本の伝統的食文化、外国の食文化、メニュー、食卓、食空間を含んだ食のコーディネートとはどのようなことか考える。さらに食卓のコーディネートにおいて欠かすことのできない、食器やグラスなどの食卓にまつわるアイテムの歴史やセッティングの基本などを学ぶ。	・食品のコーディネートに関する総合的な知識を身につけ、論述および実践することができる。(知識・技能) ・実社会で活用されているフードコーディネートについて十分に説明できる。(課題発見・解決力) ・フーズスペシャリスト資格認定試験に合格できる。(探究・継続力)	・食品のコーディネートに関する基本的な知識を身につけ、実践することができる。(知識・技能) ・実社会で活用されているフードコーディネートについて説明できる。(課題発見・解決力) ・フーズスペシャリスト資格認定試験に挑戦できる。(探究・継続力)
レシピ開発演習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	2	2	人は、ただ栄養素を摂取することだけを目的として食事をするわけではない。また、食べるという毎日の行動が社会や環境に与える影響は大きい。この科目では、健康や環境などに配慮した食生活を送るために必要な基礎知識を学ぶとともに、フードデザイン実習で身に付けた知識と技術を応用し、様々なテーマに沿ったレシピを考案する。さらに、考案したレシピや調理例をソーシャルメディアを通して紹介する方法を身に付ける。	・社会状況や自然環境、健康問題などを十分に考慮しながら、テーマに沿ったレシピを開発することができる。(探究・継続力) ・授業で学んだ知識や豊かな発想に基づき、アイデアを共有しながらレシピを開発することができる。(発想力・提案力) ・レシピに則った調理操作を十分行うことができる。(知識・技能) ・開発したレシピを魅力的に伝えることができる。(知識・技能) ・演習内容をよく理解し、グループでコミュニケーションをはかりながら行動し、演習を円滑に進めることができる。(リーダーシップ)	・テーマに沿ったレシピを開発することができる。(探究・継続力) ・アイデアを共有しながらレシピを開発することができる。(発想力・提案力) ・レシピに則った調理操作を行うことができる。(知識・技能) ・開発したレシピを正しく伝えることができる。(知識・技能) ・演習内容を理解し、グループでコミュニケーションをはかりながら行動することができる。(リーダーシップ)
フードパッケージ実習	生活科学科 専門教育科目 食・健康コース	2	1	市販されている多くの加工食品は、魅力的なパッケージがなされているが、そのパッケージには、法律などにより表示すべき内容などにルールがある。この科目では、食品のパッケージのルールを学んだ上で、消費者にとって魅力的な食品を開発し、その食品に対する購買意識が高まるような媒体(パッケージなど)を作成することにより、食品におけるパッケージの意義や消費者が求める食品を理解する力を身につける。	・食品表示のルールについて、複数の事例を挙げて説明できる。(知識・技能) ・市販されている様々な食品について特徴を理解し、消費者が求めるパッケージなどについて事例を挙げて説明できる。(知識・技能) ・新たな食品を開発し、それに適したパッケージなどを制作した上で、食品の魅力プレゼンテーションできる。(発想力・提案力) ・消費者が求める食品について理解し、複数の事例を挙げて説明できる。(課題発見・解決力)	・食品表示のルールについて、少なくとも1つの事例を挙げて説明できる。(知識・技能) ・市販されている様々な食品について特徴を理解し、消費者が求めるパッケージについて基本的な事項について説明できる。(知識・技能) ・食品に適したパッケージを制作できる。(発想力・提案力) ・消費者が求める食品について理解し、基本的な事項について説明できる。(課題発見・解決力)
プロダクトデザイン論	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	2	プロダクトデザインとは、家電製品、衣服、インテリア雑貨、家具、パッケージ、玩具など、生活に必要な道具、機械、製品のデザイン全般を意味し、工業製品をはじめ、広義には手芸も含まれる。社会とプロダクトデザインの関係、デザインマネジメント、デザインプロセス、ユーザ調査・コンセプト・デザイン評価のための手法、視覚化のための手法などを学び、プロダクトデザインに関する理論と知識を修得する。	・生活者の立場からデザインを捉え、デザインが生活に与える影響や責任、文化的・社会的意義が的確に説明できる。(知識・技能) ・ソリューション・デザイン、ソーシャル・デザイン、サステイナブル、ダイバーシティ等、プロダクトデザイン分野で使用される用語を正しく理解し、デザイン思考の方法論について客観的に捉え、問題を解決するために自ら探究することができる。(探究・継続力) ・感性工学的・人間工学的なデザインの基本に基づき、プロダクトの機能や役割を様々な視点から検討・判断することができる。(課題発見・解決力)	・生活者の立場からデザインを捉え、デザインが生活に与える影響や責任、文化的・社会的意義が説明できる。(知識・技能) ・プロダクトデザインの分野で使用される用語を理解し、問題を解決するために自ら探究することができる。(探究・継続力) ・感性工学的・人間工学的なデザインの基本に基づき、プロダクトの機能や役割を判断できる。(課題発見・解決力)
ドローイング演習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	2	基礎描写力の修得は、自らの観察力、構成力、造形力の向上にきわめて役立つと共に自らの創作の基盤となる。この科目では、もの創りに必要なドローイングの習得を目指し、線の描き方、形の捉え方についての基礎知識と技法について、実技を通して学習する。形の見かた、とり方、構図について理解する「基礎演習」、正確に形を描く力を養う「静物ドローイング」、短時間で形的に捉える眼を養う「鉛筆クロッキー」などの基礎を積み重ね、表現の楽しさを体験する。仕上がった作品は「ドローイングブック」として編集し、履修者で共有することで、鑑賞する態度や洞察力を高める。	・ドローイングの基本を学び、造形に対する深い知識を習得し、的確に説明できる。(知識・技能) ・制作を通じて表現の楽しさや感性を磨き、日頃から継続的に造形作品に親しみ、鑑賞できる態度を養うことができる。(探究・継続力) ・基礎演習を積み重ね、テクニックを学ぶことで、もの創りに必要なドローイングテクニックを十分に習得し、それらを効果的に編集することで、自らの表現活動に活かせる課題発見力・描写力・洞察力を身につけることができる。(課題発見・解決力)	・ドローイングの基本を学び、造形に対する知識を習得し、説明できる。(知識・技能) ・制作を通じて表現の楽しさや感性を磨き、鑑賞できる態度を養うことができる。(探究・継続力) ・テクニックを学ぶことで、もの創りに必要なドローイングテクニックを習得し、それらを編集することで、課題発見力・描写力・洞察力を身につけることができる。(課題発見・解決力)
生活プロダクトデザイン演習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	2	わたしたちの日常に密接な生活デザイン、およびプロダクトデザイン(生活道具、服飾、雑貨、文具、家電、家具、生活空間および周辺領域)について、生活者の視点に立って、デザインの特徴、成立過程、エレメント等について学ぶ。具体的な事例をもとに、スケッチ課題を通じて観察・考察し、展覧会やショールーム見学、神保町のフィールド調査等、学外授業を実施する。これらの結果をプレゼンテーションし、履修者間で共有する。演習を通して、人々が安全で快適に使うことができ、審美性や機能性に優れ、環境に配慮した持続可能なデザインとは何かについて理解し、これからの社会において求められる生活デザインを選択し、創造するための基本的な知識と技能を身につける。	・生活デザインやプロダクトデザインの価値・役割について十分に理解し、具体的に説明できる。(知識・理解) ・フィールドワークやインタビュー等の調査において、課題を発見し、的確に分析し、結果を記述・発表することができる。(課題発見・解決力) ・グループワークを通じて、意見を自分の言葉で的確に伝え、メンバーの意見を汲み取り、協働して成果を十分に発揮することができる。(リーダーシップ)	・生活デザインやプロダクトデザインの価値・役割について理解できる。(知識・理解) ・フィールドワークやインタビュー等の調査において、結果を記述・発表することができる。(課題発見・解決力) ・グループワークを通じて、成果を発揮することができる。(リーダーシップ)
生活プロダクトメディア演習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	2	わたしたちの日常に密接な生活デザイン、およびプロダクトデザインについて、メディアとの関わりをふまえ、演習を通して理解する。商品カタログやCM、SNS等、プロダクトの情報を伝える媒体に対するメディアリテラシーを理解した上で、製作した課題を効果的に表現するための技術を修得する。デザインの変遷、デザイン様式等について、ビジュアルレポートを編集したり、展覧会やデザインアワード見学、生活道具に関するレポート作成、ショップ模様の制作と撮影や動画編集、等を通して、問題発見力、編集力、提案力、表現力を養う。これらの演習により、プロダクトデザインを主体的に選択・評価したり、製品の企画や広告を制作したり、消費者への提案に活用できる知識と技能を修得する。	・プロダクトデザインに関連する知識について、メディアの関わりをふまえて理解し、説明することができる。(知識・技能) ・演習課題に取り組み、優れた想像力、造形力、表現力を磨き、独創的な創造的思考力と具現化能力を修得した上で、作品を完成させて、的確に発表することができる。(発想力・提案力) ・グループワークを通じて、意見を自分の言葉で的確に伝え、メンバーの意見を汲み取り、協働して成果を十分に発揮することができる。(リーダーシップ)	・プロダクトデザインに関連する知識について、メディアの関わりをふまえて理解することができる。(知識・技能) ・演習課題に取り組み、創造的思考力により作品を完成させて、発表することができる。(発想力・提案力) ・グループワークを通じて、協働して成果を発揮することができる。(リーダーシップ)

科目名称	科目区分	当年度次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
カラーコーディネート演習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	2	色彩の役割や機能を認識し、配色の効果的な技法を修得するために、生活と色彩、光と色彩、目と大脳の関係、色がみえるしくみ、色彩の心理、マンセル体系、NCS、PCCSをはじめ、PANTONEやDIC等の実務に不可欠な色体系、代表的な色彩調和論、デジタルカラーの理論、色彩調査の実施、プロダクトの色彩、カラーユニバーサルの理解と事例研究などを学ぶ。配色カードを活用した演習を行うことで、色彩や配色に関する知識と表現に活かす創造力を養う。	・色彩学の知識（色彩工学・色彩心理・応用色彩学）、および、美しく調和のとれた配色デザインとは何か、ユニバーサルデザインについて十分に理解した上で、得られた知識を学修課題に活用・応用できる。（知識・技能） ・演習課題を通じて課題を発見し、優れた色彩の選択ができることに加え、色彩の理論をふまえた表現ができる。（課題発見・解決力） ・優れた作品例を鑑賞し、豊かな色彩表現につなげたり、身の回りの色彩環境を創造的に構築することができる。（発想力・提案力）	・色彩学の基本的な知識を学び、美しく調和のとれた配色デザインとは何かを説明できる。（知識・技能） ・演習課題を通じて課題を発見し、色彩の選択や表現ができる。（課題発見・解決力） ・優れた作品例を鑑賞し、色彩表現につなげることができる。（発想力・提案力）
イラストレーション(実習)	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	2	1	イラストレーションとは、情報や概念の視覚化、図解などのコミュニケーションを主目的とした表現である。イラストを作成するために重要な絵画的・造形的な基礎技術である。観察/描写/構成/色彩/画材/空間/企画・演出の基本を習得し、人物画やオリジナルカット、製品の形やファッション画、家具、キャラクター、広告、パッケージ、ポスターなどの多様なイラストを正確にかつ表現力豊かに制作するための基本的な技術を学ぶ。	・イラストレーションの基本を学び、造形に対する知識を習得した上で、様々なテクニックを学び、イラストレーションに必要な確かな描写力と豊かな表現力を習得できる。（知識・技能） ・イラスト制作を通じて表現に対する感性を養い、イラストレーションの目的である「テーマを伝えること」を理解することができる。（課題発見・解決力） ・描く過程での試行錯誤を通じて、イラストレーションで明確なメッセージを伝えることができる。（発想力・提案力）	・イラストレーションの基本を学び、イラストレーションに必要な描写力と表現力を習得できる。（知識・技能） ・イラスト制作を通じて表現に対する感性を養い、イラストレーションの目的である「テーマを伝えること」を理解することができる。（課題発見・解決力） ・イラストレーションでメッセージを伝えることができる。（発想力・提案力）
ユニバーサルデザイン論	生活科学科 専門教育科目 ITメディアコース	2	2	ユニバーサルデザイン（Universal Design, UD）に対する理解を深め、生活科学におけるその必要性と意義について考察する。言語や文化、年齢、性別、能力、経験などの差異に関わらず、すべての人を利用可能な「やさしい」デザインを考え、幅広いデザイン領域にまたがるユニバーサルデザインの符号像と現代社会における役割について解説する。身近な事例をもとに、「認知性」、「操作性」（ユーザビリティ）、「可読性」（レジビリティ）など、ユニバーサルデザインの原則に基づいた考察を展開する。グローバル化する現代社会において、ユニバーサルデザインに対する知見を高め、多様な生活環境やコミュニケーションを豊かにする方法論を涵養する。	・生活科学におけるユニバーサルデザインの必要性と意義について詳しく説明できる。（知識・技能） ・ユニバーサルデザイン7原則にもとづき、造形美と機能美の観点から多様性にもとづいた造形について観察し、課題を発見し解決案を提示することができる。（課題発見・解決力） ・ユニバーサルデザインにおける「認知性」、「操作性」（ユーザビリティ）、「可読性」（レジビリティ）の優れた活用能力を示すことができる。（発想力・提案力）	・生活科学におけるユニバーサルデザインの必要性と意義について説明できる。（知識・技能） ・ユニバーサルデザイン7原則にもとづき、造形美と機能美の観点から多様性にもとづいた造形について観察し、課題を発見することができる。（課題発見・解決力） ・ユニバーサルデザインにおける「認知性」、「操作性」（ユーザビリティ）、「可読性」（レジビリティ）の基本的な活用能力を示すことができる。（発想力・提案力）
3D造形デザイン実習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	2	2	デジタルデザインツールの発達に伴い、より簡単に2次元や3次元での創造的表現が可能となっている。この授業では、パソコンの3Dデザインアプリケーションを用いた造形物の作成技術の基本を学び、課題を通じて操作方法を修得する。さらに、自分のアイデアでデザインしたプロダクトを3Dプリンタで出力する方法も身に付ける。イメージ通りの形態になるまで修正・調整を繰り返すことで作品のクオリティを高めて、造形力と想像力および提案力を養う。	・3DCADソフトや3Dプリンタの基本的な操作方法を理解し、正確に3Dモデルを構築したり出力したりすることができる。（知識・技能） ・自分1人の力でプロダクト製品等を立体的にデザインし、3DCADソフトで正しく作図し3Dプリンタで出力することができる。（発想力・提案力） ・社会や生活内に潜む問題を見出し、解決するためのプロダクト提案を3Dプリンタを有効に用い行うことができる。（課題発見・解決力） （発想力・提案力）	・3DCADソフトや3Dプリンタの基本的な操作方法を最低限理解し、3Dモデルを構築したり出力したりすることができる。（知識・技能） ・サポートの下でプロダクト製品等を立体的にデザインし、3DCADソフトで作図し3Dプリンタで出力することができる。（発想力・提案力） ・他者の協力を得ながら社会や生活内に潜む問題を見出し、解決するためのプロダクト提案を3Dプリンタを用い行うことができる。（課題発見・解決力） （発想力・提案力）
ファッションデザイン論	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	2	ファッションは人びとの行動や考え方を規定する社会現象であるという観点から、ファッションデザインの変遷を学ぶ。人はなぜ服を着るのか？という衣服の起源に始まり、記号性や流行の理論を学んだ上で、現代ファッション史を概観する。現代服の原点であるシャネル、ディオールの50年代ファッション、60年代のミニ、モッズやアイビー、70年代のフォークロアやジーンズ、80年代以降の三宅 川久保、山本らの革新性、90年代のカジュアル化、2000年代のファスト化、2010年代のSNSによるファッション情報の変化、2020年代におけるファッションデザインにおけるサステナビリティ等、今日的な課題について理解する。	・近現代のファッション史、ファッションデザインの流れ、ディテール、色彩、トレンド、現代のファッションの問題点について、具体的かつ、詳しく説明できる。（知識・技能） ・ファッションデザインの変遷に基づき、現在のファッションデザインの問題点を指摘し、消費・生産・流通等の諸課題について具体的に提言することができる。（課題発見・解決力） ・設定されたテーマに加え、自らで考案したアイデアをもとに、ファッションデザインの企画やプレゼンテーションを通じて、授業で理解した内容を的確に表現できる。（発想力・提案力）	・近現代のファッション史、ファッションデザインの流れ、ディテール、色彩、トレンドについて説明できる。（知識・技能） ・ファッションデザインの変遷に基づき、現在のファッションデザインの問題点を指摘することができる。（課題発見・解決力） ・設定されたテーマをもとに、ファッションデザインの企画やプレゼンテーションを行い、授業で理解した内容を表現できる。（発想力・提案力）
テキスタイルデザイン実習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	1	手仕事として作られてきたテキスタイルには人の心を和ませる働きがある。伝統的な日本の文様、繊維や布の特性、基本的な染色技法や道具、染料の扱い方などを実習を通して学び、作品を制作することから理解を深める。さらに、CGソフトを活用したテキスタイルデザインに取り組み、実用性を活かしたデザインの面白さや奥深さを理解する。	・繊維や布の特徴に応じた染色方法を理解し、優れた作品を完成することができる。（知識・技能） ・伝統的な文様をはじめとするテキスタイルデザインについて探究し、具体的に説明できる。（探究・継続力） ・文様や染色技法を効果的にデザインに取り入れて、表現することができる。（発想力・提案力）	・繊維や布の特徴に応じた基本的な染色方法を理解し、作品を完成することができる。（知識・技能） ・伝統的な文様をはじめとするテキスタイルデザインについて探究し、説明できる。（探究・継続力） ・文様や染色技法をデザインに取り入れて、表現することができる。（発想力・提案力）
ファッションデザイン演習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	2	ファッションは、美しさや快適性を求める人間の欲求から生まれてくるものである。ここでは感性豊かなクリエイターあるいはコーディネーターを目指して、自分自身の装いの評価やカラーコーディネート、多様な繊維素材の特性や用途、ファッションイラストの分類などを学ぶ。演習や学外授業を通して、審美性や機能性に優れた、社会や環境に配慮した衣服のあり方を理解し、得られた知識や技能をもとに他者への提案や助言を行うことができる能力を修得する。	・ファッションデザインに必要な基本的な知識や技能を身につけることができる。（知識・技能） ・衣服の審美性や機能性、社会や環境に配慮した衣服の着装を理解し、他者への提案や適切な助言を具体的に示すことができる。（課題発見・解決力） ・グループワークを積極的に行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。（リーダーシップ）	・ファッションデザインに必要な最低限の知識や技能を身につけることができる。（知識・技能） ・衣服の審美性や機能性、社会や環境に配慮した衣服の着装を理解し、他者への提案や助言を示すことができる。（課題発見・解決力） ・グループワークを行い、自らの考えを最低限示し、他者を支援することでリーダーシップを実践することができる。（リーダーシップ）
ファッションメディア演習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	2	ネット販売（EC、eコマースまたは電子商取引）の普及に伴い、Webマガジンや企業のホームページなどファッション系メディアは大きく変化している。ここでは、ファッションに関するメディアの分析を通してファッション・アパレル業界の現状やメディアを活用する利点や問題など基本的な知識や技能を修得し、ファッションデザインの効果的な提案方法について学ぶ。	・ファッション系メディアの特徴や役割を理解し、その活用方法を具体的に説明することができる。（知識・技能） ・作成したファッションデザイン画を必要に応じて適切に加工、修正、編集することができる。さらに、作成した作品を使用してカタログやWebマガジン、メタバース等のコンテンツ作成ができる。（発想力・提案力） ・グループワークを積極的に行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。（リーダーシップ）	・ファッション系メディアの特徴や役割を理解し、その活用方法を説明することができる。（知識・技能） ・作成したファッションデザイン画を適切に加工、修正、編集することができる。さらに、作成した作品を使用してカタログやWebマガジン等のコンテンツ作成ができる。（発想力・提案力） ・グループワークを行い、自らの考えを最低限示し、他者を支援することでリーダーシップを実践することができる。（リーダーシップ）
アパレル制作実習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	1	ファッションを楽しむ装うことは、新しい女性の生き方でも生み出してきた。この科目では、衣服やその周辺のファッションアイテムを対象に、衣服や帽子の製作を通じて、服地の取り扱い方やパターン（型紙）を用いた基本的な製作技術や知識を学び、デザイン力を養う。また、着用者に合った衣服や帽子のデザイン、服地選びからファッションのコーディネイトを学ぶと共に、ファッションに対する理解を深める。	・衣服や帽子の製作方法を理解し、優れた作品を完成することができる。（知識・技能） ・衣服や帽子の製作技術やデザインを探究し、優れたデザイン力をつけられることができる。（探究・継続力） ・TPO やライフステージに応じたファッションを適切に選び、コーディネート提案することができるようになる。（発想力・提案力）	・衣服や帽子の基本的な製作方法について理解し、作品を完成することができる。（知識・技能） ・衣服や帽子の基本的な製作技術やデザインを探究し、デザイン力をつけられることができる。（探究・継続力） ・TPO やライフステージに応じたファッションを選び、コーディネートができるようになる。（発想力・提案力）
ファッションビジネス論	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	2	2	ファッションビジネスは、経済動向の変化や新興国の台頭により、グローバル化が進み大きく変化している。日本のアパレルを中心とするファッションビジネスの変遷や現在のアパレル・ファッション業界の構造に加えて、アパレル・ファッションビジネス特有のマーケティング、マーチャライジング、流通について理解する。さらに「ファッションビジネス能力検定」などファッションビジネス分野に設置されている資格とその役割について理解する。	・アパレル・ファッション業界の構造や基本的な知識を修得し、アパレル業界の現状を具体的に説明できる。（知識・技能） ・アパレル・ファッション分野特有の構造や機能について探究し、資格取得に向けて、継続的に学ぶことができる。（探究・継続力） ・アパレル・ファッション業界に関心を持って業界特有の生産・流通・消費構造が持つ諸課題を的確に理解し、解決方法を具体的に示すことができる。（課題発見・解決力）	・アパレル・ファッション業界の構造や基本的な最小限の知識を修得し、アパレル業界の現状を説明できる。（知識・技能） ・アパレル・ファッション分野特有の構造や機能について探究することができる。（探究・継続力） ・アパレル・ファッション業界に関心を持って業界特有の生産・流通・消費構造が持つ諸課題を理解し、解決方法を具体的に示すことができる。（課題発見・解決力）

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
ファッションコーディネート演習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	2	2	現在のファッションは、コーディネートによって個性を出す傾向にある。衣服や装飾品の組み合わせにとどまらず、ライフスタイルや生活シーン、生活空間、社会環境もコーディネートの重要な要素となっている。ここでは、コーディネートを色、素材、イメージ、ライフステージなどの視点からとらえ、基礎的な知識と技能を修得する。さらに、デザイナーやコーディネーター、スタイリストの作品や取組みを学ぶことから、実践的な表現力や想像力を養う。	・ファッションコーディネートに必要な基礎的な知識や技能を身につけることができる。(知識・技能) ・実生活の中でファッションに興味を持って観察し、コーディネートを継続的に学び、活かすことができる。(探究・継続力) ・ファッションの変化や消費者ニーズを的確に理解し、必要に応じたコーディネートを具体的に提案することができる。(発想力・提案力) ・グループワークを積極的に行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。(リーダーシップ)	・ファッションコーディネートに必要な最低限の知識や技能を身につけることができる。(知識・技能) ・実生活の中でファッションを観察し、コーディネートを継続的に学び、活かすことができる。(探究・継続力) ・ファッションの変化や消費者ニーズを理解し、コーディネートを提案することができる。(発想力・提案力) ・グループワークを行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを行うことができる。(リーダーシップ)
アパレル企画演習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	2	2	アパレル・ファッション業界における企画部門の業務内容や現状を学ぶことから、その役割を理解する。仮想ブランド等を設定し、カタログの企画・製作、プロモーションを模擬的に実施することから企画力や発信力を養う。さらに、市場動向や消費者動向の調査手法、年間のプロモーション計画の立案などのグループワークを通して、コミュニケーションの進め方について理解する。	・アパレルにおける企画の役割を理解し、具体的に提案できる。(課題発見・解決力) ・アパレル業界の動向や消費者動向を的確に理解し、消費者ニーズの変化や課題を具体的に説明できる。(課題発見・解決力) ・アパレル・ファッション業界に関心を持ってプロモーションに関する具体的な企画を提案し、積極的に取り組むことができる。(発想力・提案力) ・グループワークを積極的に行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップを発揮することができる。(リーダーシップ)	・アパレルにおける企画の役割を理解し、提案できる。(課題発見・解決力) ・アパレル業界の動向や消費者動向を理解し、消費者ニーズの変化や課題を説明できる。(課題発見・解決力) ・アパレル・ファッション業界に関心を持ってプロモーションに関する企画を提案し、取り組むことができる。(発想力・提案力) ・グループワークを行い、自らの考えを示し、他者を支援することでリーダーシップをある程度発揮することができる。(リーダーシップ)
住環境デザイン論	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	2	建築における快適な室内環境を創出するための要因である「熱、空気、光及び音」に関する基礎的な事項、および高齢者・障害者の視点から、住まい、地域、施設にいたる住環境整備の重要性について、テキストや関連資料を用いて学習し理解する。福祉住環境コーディネーター検定試験の基礎学習内容を含んでいる。	・熱、光、空気、音及び水等の物理的環境要因やバリアフリー等の福祉的環境要因を理解し、実践的に説明できる。(知識・技能) ・快適な住環境を実現するために、室内環境の視点からどのようなことに配慮しなければならないかを理解・探求し、客観的な視点から説明できる。(探究・継続力) ・快適で健康的な住生活ができる環境及び福祉配慮型住宅を実現する技能を実践的な学習によって身につけ、説得力のある提案ができる。(発想力・提案力)	・熱、光、空気、音及び水等の物理的環境要因やバリアフリー等の福祉的環境要因を最低限理解し、基本的なことを説明できる。(知識・技能) ・快適な住環境を実現するために、室内環境の視点からどのようなことに配慮しなければならないかを最低限理解し説明できる。(探究・継続力) ・快適で健康的な住生活ができる環境及び福祉配慮型住宅を実現する技能を学習によって身につけ、提案できる。(発想力・提案力)
インテリア製図演習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	2	製図は自分の考えの表現手段であると同時に、伝達手段でもある。ひとりよがりな表現では他者に内容を正しく伝えることは不可能であり、多くの人に共有されている製図のルールに従って表現することが要求される。また、表現されるものも、単なる夢や空想のレベルではなく、実現可能なレベルの作品であることが要求される。こうした要求に応じられるように、製図台や専門的な製図用具を用いて実務に対応した製図の基礎を学習し、理解する。	・将来、製図の仕事の分野で信頼される人になるために必要な製図上の基本的な知識を理解し、説明できる。(知識・技能) ・本格的な製図板、製図用具の正しい使い方、正しい製図法を、実践的な学習によって身につけ、製図を行うことができる。(知識・技能) ・情報を伝える手段としての設計図の表現方法を提案し、正確に美しく作図することができる。(発想力・提案力) ・正しい製図方法を仲間にもアドバイスし、積極的に手助けすることができる(リーダーシップ)	・将来、製図の仕事の分野で信頼される人になるために必要な製図上の最低限の知識を理解し、基本的なことについて説明できる。(知識・技能) ・本格的な製図板、製図用具の正しい使い方、正しい製図法を最低限身につけ、基礎的な製図を行うことができる。(知識・技能) ・情報を伝える手段としての設計図の表現方法を理解し作図することができる。(発想力・提案力) ・正しい製図方法を積極的に仲間と相談することができる(リーダーシップ)
インテリア製図演習Ⅱ	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	2	インテリア製図演習Ⅰで修得した製図のルールに従った表現能力を基に、この演習では具体的な設計課題を通して、インテリア空間の表現に相応しい図法を学習し、理解する。また、適切な質感感覚と立体空間を構築する創造性を養い、正確に設計図を描く力を身につける	・図面表現の基礎を的確に理解し、具体的に説明できる。(知識・技能) ・3次元で空間や実体をイメージする能力を、実践的な学習によって身につけ、製図として適切に表現することができる。(発想力・提案力) ・仲間と積極的に討論し、知識や技能を協力的に高めあうことができる(リーダーシップ)	・図面表現の基礎を最低限理解し、基本的なことについては説明することができる。(知識・技能) ・3次元で空間や実体をイメージする能力を学習によって身につけ、基礎的な製図として表現することができる。(発想力・提案力) ・仲間と討論し、知識や技能を高めあうことができる(リーダーシップ)
インテリアCAD実習Ⅰ	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	1	CAD（コンピューターを使った図面作成）ソフトの操作を習得しながら、住まいのインテリアデザインについて学ぶことで、自らの表現力を広げることを目指す。CADソフトの基本操作をさまざまな作図課題を通して習得、理解し、住宅やインテリアの図面表現を学ぶ。	・立体や空間を2次元として表現する図面のルールを正確に理解し、具体的に説明できる。(知識・技能) ・CADソフトの基本的な操作方法を十分に理解し、各種設定も自ら行うことができる。モノの寸法やスケール感を身につけ、正確な図形・図面を自由に描くことができる。(課題発見・解決力) ・2次元空間を正確に構築し、図面としての体裁やレイアウト方法を提案し、印刷・表現することができる。(発想力・提案力)	・立体や空間を2次元として表現する図面のルールを最低限理解し、基本的なことについて説明できる。(知識・技能) ・CADソフトの基本的な操作方法を最低限理解し、指導の下で各種設定を行うことができる。モノの寸法やスケール感を身につけ、図形・図面を描くことができる。(課題発見・解決力) ・2次元空間を構築し、図面としての最低限の体裁を整え印刷・表現することができる。(発想力・提案力)
インテリアCAD実習Ⅱ	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	1	1	インテリアCAD実習ⅠではCADソフトを使いこなすことを最優先に学習したが、この実習ではCADソフトの図面と実際の立体的な部屋、建物との関係を頭に入れて、描いているものを理解した上で作図できることを目標とする。さらに、自ら考えた住まいのインテリアデザインを美しく表現することへつなげていく。	・CAD図面と3次元の空間や実体との関係を理解し、具体的に説明できる。(知識・技能) ・CADソフトの応用的な操作方法を十分に理解し、不明な作図方法について自己解決することで、正確な図形・図面を自ら描くことができる。(課題発見・解決力) ・3次元空間を構築し、図面としての体裁やレイアウト方法を提案し、印刷・表現することができる。(発想力・提案力)	・CAD図面と3次元の空間や実体との関係を最低限理解し、基本的なことは説明できる。(知識・技能) ・CADソフトの応用的な操作方法を最低限理解し、指導の下で正確な図形・図面を描くことができる。(課題発見・解決力) ・3次元空間を構築し、図面としての最低限の体裁を整え印刷・表現することができる。(発想力・提案力)
インテリア設計演習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	2	2	インテリアの特質を学習しながら自分のアイデアを盛り込んだ設計をするには、大きく手描き図面や模型作成による方法と、コンピューターを利用して製図、表現を行う方法がある。この演習では前者の方法で、自らの手作業を通じて、ものを創り上げる実感を大切にしながら、製図、表現の基礎を学ぶと共に、インテリアに対する理解を深める。	・インテリア設計の意義を理解し、表現に値する内容を具体的に提案し、発表することができる。(知識・技能) ・空間を立体的に把握する能力を養い、様々な観点からインテリア空間を構成し快適な環境を設計することができる。(課題発見・解決力) ・インテリア設計の表現方法を、実践的な学習によって身につけ、説得力のある作品として表現することができる。(発想力・提案力) ・アイデアや表現方法について仲間と積極的に話し合い、意見交換を行うことができる(リーダーシップ)	・インテリア設計の意義を理解し、表現に値する最低限の内容を提案し、発表することができる。(知識・技能) ・空間を立体的に把握する能力を養い、インテリア空間を構成し快適な環境を設計することができる。(課題発見・解決力) ・インテリア設計の表現方法を、学習によって身につけ、作品として表現することができる。(発想力・提案力) ・アイデアや表現方法について仲間と意見交換を行うことができる(リーダーシップ)
インテリアコーディネート論	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	2	2	室内空間の床・壁・天井を構成する素材や造作、デザインについての理解を深め、インテリアをコーディネートするための基礎的な知識と理論を修得する。また、椅子や照明器具などのインテリア家具に触れたり、20世紀を代表する建築家・インテリアデザイナーの作品を鑑賞したりすることで表現力と想像力を涵養する。インテリアコーディネーター資格試験の基礎学習内容を含んでいる。	・インテリアを構成する諸要素について理解し、具体的に説明できる。(知識・技能) ・実生活の中でインテリアデザインを注意深く観察し、より快適な提案を具体的にを行うことができる。(探究・継続力) ・諸要素を組み合わせて成立するインテリアコーディネートの基本を、実践的な学習によって身につけ、説得力のある提案ができる。(発想力・提案力)	・インテリアを構成する諸要素について最低限理解し、基本的な内容を説明できる。(知識・技能) ・実生活の中でインテリアデザインを観察し、快適な提案を行うことができる。(探究・継続力) ・諸要素を組み合わせて成立するインテリアコーディネートの基本を学習によって身につけ、提案ができる。(発想力・提案力)

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
インテリアコーディネート演習	生活科学科 専門教育科目 生活デザインコース	2	2	インテリアコーディネート論で学んだ知識を基に具体的なインテリアコーディネーションの表現技法を身に付ける講義である。インテリア設計に必要な作図の知識から平面着彩、スケッチ、パースの作図方法等を課題を通して修得する。また、家具デザインコンペ等への参加を通して、社会生活に内包される課題を発見し、解決力・発想力・提案力を養う。インテリアコーディネーター資格試験の基礎学習内容を含んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インテリアコーディネーションの表現手段を正しく理解し、美しく表現することができる。（知識・技能）（発想力・提案力）</li> <li>・空間エレメントのスケールを正しく適切に描画することができる。（知識・技能）</li> <li>・現代社会のインテリア空間に必要な家具をデザインし、適切にプレゼンテーションすることができる。（課題発見・解決力）（発想力・提案力）</li> <li>・インテリアコーディネーター資格取得に必要な知識と技術を自ら探求し学習できている。（探究・継続力）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インテリアコーディネーションの表現手段を最低限理解し、表現することができる。（知識・技能）（発想力・提案力）</li> <li>・空間エレメントのスケールをおおよそ適切に描画することができる。（知識・技能）</li> <li>・インテリア空間のための家具をデザインし、プレゼンテーションすることができる。（課題発見・解決力）（発想力・提案力）</li> <li>・インテリアコーディネーター資格取得に必要な最低限の知識と技術を自ら学習できている。（探究・継続力）</li> </ul>